

日本の未来を見据えて撃つ!

そんなあなたにホットな話題をお送りする

最先端オピニオン紙

日本シティジャーナル

発行: ネットハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3

TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334

[平日: 10:00~19:00、土曜: 12:00~17:00]

http://www.nihoncity.com

成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、船橋市

千葉市(花見川区、美浜区)、習志野市、八千代市、西街道市

高井町、流町、小林、安良、多古町、横芝光町、芝山町、神崎町

発行部数: 500,000部

古代日本の地勢観
古代人が日本列島に拠点を見出した手法

Part. II

古事記や日本書紀に記載されている国生み神話によると、日本国家の起源は淡路島から始まっています。神話という言葉の通り、ごく一般的には史実として受け止められることなく、単なる昔話のような感覚で捉える方が多いようです。しかしながら、古代人の視点に立って日本列島の地勢を見つめ直していくうちに、何故、多くの島々の中から淡路島が国造りの原点として選ばれたのか、その理由が見えてきます。「記」「紀」に記された古代史における淡路島に纏わる話は、単なる神話として終始するような空想話ではなく、優れた地勢観の元に特別な位置づけを持つ場所として選別された結果であり、日本列島各地には淡路島に紐づけられた重要拠点が数多く存在するのです。それらの中には古代の集落、主要港、名山、そして著名な神社等が含まれることからしても、淡路島が重要な指標となっていたことを知ることができます。

淡路島を起源とする国生みの在り方を再考し、列島に渡来した古代人の渡航経路も含め、その地理観と列島全体の地勢を見つめ直すことは、島々に散在する史跡の由緒を理解する上で重要です。日本列島にて育まれた古代社会の姿をより良く理解する為にも、今一度、日本人とは何か、そして古代人の目に映った日本列島の姿とはいかなるものであったか、振り返ってみましょう。

DNA研究が証する古代人の渡航経路

世界でも屈指の長い歴史の痕跡が随所に残されている日本列島ですが、その歴史の主人公である私たちの祖先が如何にして列島に渡来し、古代文化の礎を築いたのか、手掛かりも少ないことから、これまであまり明文化されることはありませんでした。ごく一般的に弥生人と、



それに遡る縄文人の存在までは定説として理解されていますが、それより遡る時代になると、学説も多種多様に異なり、学校教育の場でも多くは語られずにきたのです。しかしながら、昨今の遺跡の発掘調査やDNA研究の成果により、古代の民がいつ頃、どこから日本列島を訪れ、どの地域に定住したが、ある程度の目安をつけることができるようになりました。

元来、日本人の祖先はアフリカで育まれた人類の集団の一部が、東南アジア周辺を経由して日本列島に渡ってきたと考えられています。遅くとも5-6万年前には到来し、それが旧石器時代の始まりとなります。それらの民は、北はシベリア、樺太や朝鮮半島、南からは南西諸島など、複数の渡来航路を経由して列島に移住し、縄文時代人の祖先になったと、これまで推定されてきました。しかし昨今のDNA研究の結果を踏まえると、南西諸島を経由する渡来経路がより、重要視される傾向にあります。また、全国4000ヶ所以上の場所から発見された旧石器時代の遺物からも、先史時代における列島の住民が各地に散在していたことが伺えます。種子島の横峯遺跡からは、約3万年以上前の調理場跡も発見され、岩手県金取遺跡は5-9万年前、出雲の砂原遺跡はおおよそ7-12万年前という年代が推定され公表されています。しかし原始時代の石器は自然石との見分けがつきにくく、それらの年代を特定することも容易ではないことから異論も多いようです。いずれにしても3-4万年前までの遺物は確認されており、旧石器時代には日本人の祖先となる人々が列島に存在していた史実を知ることができそうです。

昨今ではDNA研究の進化に伴い、分子人類学による検証から、日本人のルーツをより良く理解するヒントが与えられ、人類学的にはモンゴロイドに分類される日本人の祖先となる集団ルーツについて、真相が徐々に明らかになっていく過程にあります。まず、ミトコンドリアDNAによる系統分析からは、琉球諸島と北方のアイヌには多

く見つかるものの、本州には少ないとされる、日本人特有のグループが見つっています。このグループは、アジア大陸の北方から南下したのではなく、台湾付近、琉球界隈から日本列島を北上してアイヌまで至ったと考えられています。つまり、本州をおおよそバイパスして北海道方面にまで北上し、琉球と相対するよう南北の二手に分かれたのです。そのミトコンドリア母系の分析とは別に、父系Y染色体の系統分析の研究も進められています。その結果、Y染色体の中でも非常に古い系統であり、しかも地中海沿岸や中東に広く分布するグループのものと同じ染色体が、日本人の中には濃厚に存在することがわかってきたのです。このグループはYAPハプロタイプとも呼ばれるD系統に属し、中近東の人種と同じ仲間です。

これらの研究成果から、日本列島に渡来した古代人とはアジア大陸の西端、地中海周辺にルーツを持つ人々であった可能性が見えてきました。その古代西アジアの民は大陸を東方面に移動し、台湾から更に海を渡り、琉球地方を訪れたと考えられるのです。そして、琉球地方から北方アイヌへ向けて移動を続ける民も存在し、いつしか琉球地域に残存する民と、アイヌに向かった民とに分かれるという特徴的な分布になったと推定されます。

古事記や日本書紀に記載されている神々の旅も、舟で海を渡るイメージのものが多いように、古代社会では海を舟で渡ることが常套手段であり、アジア大陸から列島に渡る航海路も古くから存在していたようです。果たして古代社会において、広大な海原を渡る航海術などあったのだろうかと疑問視する声もありますが、有史においても中国の春秋戦国時代前期では、既にアジア大陸の沿岸を倭国へと向かい、今日の北九州界隈まで到来することができた航海路が確立されていたのです。そして時代を遡り、殷の時代では大陸と台湾との行き来もあったことが知られています(香港博物館編製地図参照)。そして更に古代史を遡ると、高度な文明を持つシュメール文化や古代エジプトの文明に遭遇し、

そのいずれもが優れた天文学と航海術を携えていました。それ故、日本では縄文時代と言われる原始的なイメージに映る時代であっても、アジア大陸や地中海周辺においては古代の民が舟で海を旅していたと考えることに何ら不思議はありません。

ストーンサークルの拠点選び

長い年月に育まれた古代の日本文化は、その歴史の重みを様々な遺跡を通して感じとることが出来ます。縄文遺跡や弥生遺跡の発掘調査は今日、全国至る所において行われ、定説を覆すような新たな発見も少なくありません。そして多くの遺物や土壌から浮かびあがる爪痕を通して、大昔の様相を多少ながらも垣間見ることが出来ます。その縄文遺跡の中で最も特異な事例が、環状列石とも呼ばれるストーンサークルです。ごく一般的にはイギリスのストーンヘンジがその代表格として名高いですが、実は古代日本においても大きな存在感を示していたのです。

日本のストーンサークルの遺構は、中心となる立石の周辺に石塊を環状に配したものであり、それが環状列石とも呼ばれる所以です。直径は30メートル程度のものが多く、中には50メートル以上のものもあれば、10メートル程度の大きさのものもあります。円形に配石された環状石の内側にも2重、3重に河原石が並べられ、周辺に墓穴や土器棺が存在することもあります。これらのストーンサークルは一種の天文台のように太陽を用いたカレンダーの機能を果たし、そこで祭祀儀礼が行われることもあったと考えられています。古代社会において、太陽は時計の代わりをなし、人々は中央の立石から見て、列石のどの位置に太陽が昇り降りするのを見ながら、神事の日を覚え、「時」と「暦」を刻んでいたのです。特に冬至と夏至、春分と秋分の観測は重要であり、古代の暦法では冬至の日、すなわち太陽の出入りが最も南による陰の極限の日が、1年の初めとなっていたことからしても、太陽の観測が不可欠であったことがわかります。それ故、古代の民が海を渡って日本列島に到達した際には、まず季節を知り、生活のリズムを刻む為に必要なストーンサークルを築く拠点を厳選し、環状列石が置かれた後、周辺に集落を築



いていったことでしょう。

ストーンサークルは主に東北の青森県と秋田県、北海道を中心に多く見つっていますが、中心のものは本州中部にも発見されています。主たるものを時代別に並べてみると、時代と共に列島を北上していることがわかります。まず、最古と考えられているのが長野県諏訪郡原村にある阿久遺跡です。その年代は縄文時代前期、およそ前3000年から前4500年と推定されています。その後、縄文中期では直径が30メートル以上もある大型のストーンサークルが諏訪盆地に近い静岡県、山梨県や群馬県付近で見られるようになり、中でも富士山の西南麓のなだらかな裾野に立地する千居遺跡や、山梨県都留市の牛石遺跡の存在は有名です。縄文中期後半以降には、九州を除いた日本各地でストーンサークルが造られるようになり、後期前半、前1500-前2000年には、大型のストーンサークルが秋田県北部・青森県・北海道西南部に出現します。中でも秋田県鹿角市の大湯環状列石では日時計状組石の存在が認められ、夏至の日に太陽が沈む方向に環状列石が配置されていることが確認されています。

最も古い阿久遺跡の時代は、エジプトにおいて農耕や牧畜が始まった先王朝時代、前4500年頃から、その後、古代文明が開化する前3000年頃の初期王朝時代と一致します。エジプトではその後、古王朝時代へと発展し、前2500年頃にはギザに三大ピラミッドが建造されました。その優れた文明の真相は、今日でも多くの謎に包まれたままで

次頁に続く

す。もし、日本列島に渡来した古代人の出自が地中海周辺や西アジア周辺であり、エジプト文化に匹敵するような高度な航海技術と天文学を携えていたとするならば、遠い昔に舟で大陸沿いを東に向けて航海し、台湾から琉球諸島を経由して列島を北上して航海したと考えても不思議ではありません。そしてエジプトにピラミッドの文化が発展した時期と並行して縄文中期、本州以北の日本各地でストーンサークルが建造されるようになり、やがて縄文後期に入ると、大型のストーンサークルが東北、北海道に造営されたのです。

古代の民が諏訪盆地を見定めた理由

これら古代ストーンサークルの歴史の流れの中で注目すべき点は、一番初期のものと推定される阿久遺跡が、長野県諏訪郡に発見されたことです。八ヶ岳西麓にある阿久遺跡の規模は大きく、環状列石の長径は120メートルにも達し、そこにおよそ20万個とも言われる河原石が並べられています。また、700基を超える土墳墓が存在すると推定され、周辺には竪穴式住居址が見つかっています。縄文時代前期に、長い年月をかけて造成された大規模な集落が形成され、そこで祭祀活動が活発に行われていたことに驚きを隠せません。諏訪盆地は太平洋岸より離れた距離にあり、その途中に多くの山岳が存在することからしても、内陸の奥地にある諏訪盆地に徙来から大勢の人々が居住していたとは考えられません。それ故、生活に適した海沿いの広い平野部を離れ、諏訪湖そばの盆地まで山や谷を越えてでも行かなければならない何かしらの理由があったと考えるのが妥当です。

縄文時代前期という、ごく一般的には大変原始的な時代と

考えられているその当時、大規模な環状列石を造成し、そこで祭祀活動が執り行われていたことから察するに、その集落を築いた古代人は大陸経由で渡来し、外来の文化を携えてきたと考えられます。古代の渡来者は列島に到達した際、まず新天地の地勢を綿密に調査した上で、諏訪湖そばの盆地をピンポイントで見出し、そこにストーンサークルを造ったと推定されます。では、どのようにその場所を見極めることができたのでしょうか。

昨今のDNA研究による提言に準じて、古代、日本列島に住みつた人々は、台湾、琉球界限にまず集落の拠点を持ち、そこから海を渡ってアイヌ方面まで北上してきたという前提で、古代史の流れを再検証してみましょう。古代の旅人は何を思い、列島に住みつたのでしょうか。まず、大陸から到来した古代の旅人は日の昇る方向を尊び、東に向かって旅する傾向にあったと考えられます。例えば中国の儒教では「天帝は北辰に座して南面す」という思想があります。北極星を背にして南に向いて座することにより、太陽は左手の東から昇ることになり、よって、日の昇る東は沈む西よりも尊いと考えられていたのです。このような日の出る方向を尊ぶ思想は古代からあり、いつの日においても、日が昇る東方の最先端に向かって旅する動機づけとなったことでしょう。

次に、古代の旅人は自らの拠点となる土地の条件として、豊かな水源を求めたことが挙げられます。それは日本列島では湖の存在を意味し、そのほとりに集落を築くことが好まれたのです。また、太陽を観察しながらカレンダーを刻むという観点から、夏至、冬至、そして春分、秋分の日柄が重要な指標となり、四季の存在が望まれたのです。春夏

秋冬の季節は人体に優しい生活環境を実現するだけでなく、太陽をベースにしたカレンダーを刻む上でも分かりやすいのです。その結果、南北に3000km以上に渡って広がる日本列島の中でも、温暖な四季に恵まれた地域を中心として、集落の拠点が現出されていったのではないのでしょうか。

その列島の中心となる場所として注目されたのが淡路島と推定されます。まず、淡路島は琉球地域から南西諸島を北上し、四国、瀬戸内海と繋がる一連の列島の突き当たり位置し、その後に続く本州、北海道や北方領土の島々も含めて全体を見渡すと、そこは緯度、経度共におよそ日本列島の中間地点となります。また、淡路島は、ちょうど沖縄島から徳之島、奄美大島と続く南西諸島が並ぶ方向、およそ35度の角度にあたる一直線上に位置します。琉球諸島を介して大海原を南西諸島が並ぶ方向に沿って北東に航海すれば、ごく自然に四国南岸を通り過ぎて淡路島に到達するのです。アジア大陸からの渡来者にとって、淡路島は大陸の東方に並ぶ島々の中心となる目印として、絶好の場所にあると考えられたのではないのでしょうか。

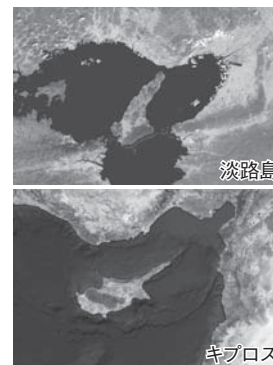
また淡路島の地勢は、実は地中海に浮かぶキプロスに類似しています。新石器時代から集落が存在し、長い歴史を誇るキプロスは、アフリカ、ヨーロッパ、アジア三大大陸の交差点に位置し、いつの時代でも重要な位置を占めていました。そのキプロスのミニチュア版が淡路島と考えられるのです。まず、キプロス島南端の緯度は34度36分ですが、淡路島の中心緯度もおよそ34度30分であり、ほぼ同じです。次に島の航空写真を比較してみれば一見してわかる通り、島の形だけでなく、その地

勢も類似していることがわかります。島の形は北東方向に細長く伸び、島の南側に集中する山間部の地勢にも共通点を見出すことができます。そしてキプロスが三大大陸の交差点に存在するように、淡路も四国、山陽、近畿という三つの地域が交差する場所に位置しているのです。無論、キプロス島の面積が9251平方キロメートルであるのに対して、淡路島は595平方キロメートルですから、15倍以上も面積に差があります。よってミニチュア版の様相ではありますが、キプロスを彷彿させる地勢だけに、渡来者にとって淡路島はとても魅力的に感じられた可能性があります。

その淡路島を見出した古代人は、更にピンポイントで島内の中心地点を定めようとした可能性があります。そしてくまなく島を探索した結果、淡路島のほぼ中央にあたる小高い山の上に、空に向けて突き出す巨大な岩石を見出したのです。そこは今日、岩上神社が建立され、その本殿裏の山の中腹には、高さ約12m、周囲16mもある巨石が、神籬岩として祀られています。このストーンサークルの中心によく見られる立石と酷似した様相をもつ巨石を、古代の渡来人は大陸の東に浮かぶ島々の基点とすべく、認知したと考えられるのです。

岩上神社の神籬岩が古代人の一大指標になったと考えられる根拠として、3つの理由が挙げられます。まず、前述した通り、神籬岩の形状がストーンサークルの立石の形に類似し、その巨大バージョンとみなすことができます。よって、列島の中心的指標に最もふさわしい自然石として捉えられたことでしょう。次に、その神籬岩から夏至の太陽が昇る30度ちょうどの方向に阿久遺跡が存在することに注目です。列島の中心点が淡路島の神籬岩と定められたからこそ、初代の集落は、太陽が昇る方向に結び付けることのできる場所に造営されたのではないのでしょうか。そして神籬岩から正確に30度を指す夏至の方角であり、かつ豊かな水源に恵まれた湖のそばという立地条件を満たす場所として、諏訪盆地が浮かび上がり、その線上に集落を造成したと考えられます。阿久遺跡の場所が選別されるに至る経緯は、この神籬岩の存在なくしては説明が難しいことからしても、信ぴょう性は高まります。

もう一つの理由は、その神籬岩が34度26分の緯度に位置していることです。淡路島、そして東の島々の中心点として定められた神籬岩は、古代日本の最初の集落を造成する場所を選ぶための基点となっただけでなく、大陸においては、中国で世界の



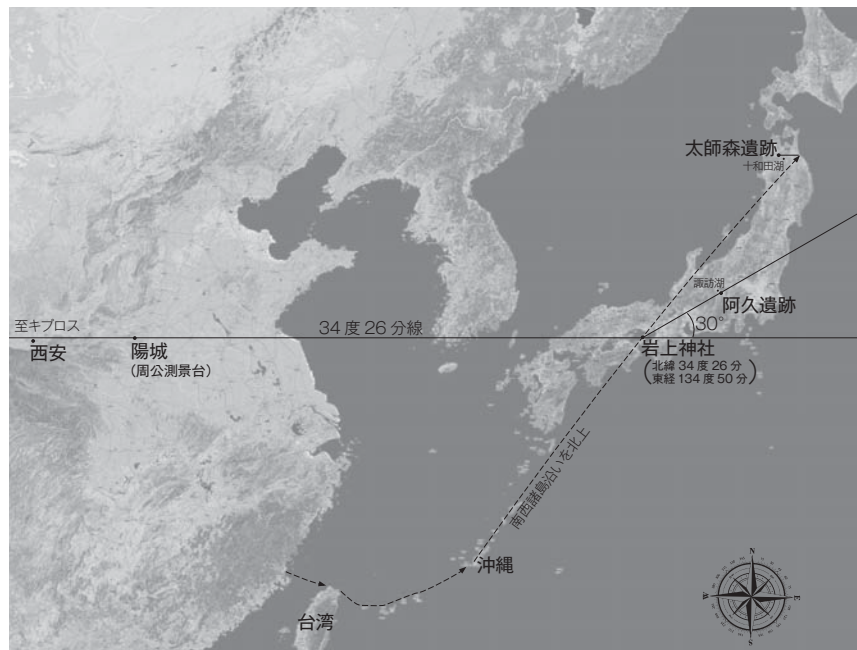
中心となる「地中」を定める為の指標としても用いられた可能性があるのです。一見、信じられないような繋がりですが、これを単なる偶然の一致と見るか、それとも計算づくめで特定された場所の連鎖と位置付けるべきか、今一度、検証してみましょう。

世界中心の緯度は34度26分

古代中国の世界観によると、大地には中心があると考えられていました。そこは中国の古書である「周礼」の司徒職の項に、「夏至の時に8尺の棒を立てて影の長さが1尺5寸になる所」と記載され、地上に立てられた1本の棒にできる影から、方位、時間、季節などの情報を得る場所でした。その故、世界の中心となる「地中」と呼ばれ、古代の天文学や地勢学に精通する学者にとっては極めて重要な観測拠点となったのです。古くから「地中」は、今日の河南省登封市、古代では陽城と呼ばれた場所に比定され、北緯34度26分に位置します。そこには今日、周公觀象台と書かれた石碑があり、古代中国の天文観測が行われた場所としても知られています。元朝においても授時暦の編纂をする際に、四十尺もある高さの高表が建造され、学者らが天文学的にデータを見直したことが史実として残されているように、いつの時代でも中国の天文台として重要な位置づけを保っていたのです。

陽城が「地中」いう教えは殷の時代まで遡ることができ、定説としてその後、晋書、宋書、隋書などの様々な古代中国史書の天文志にも紹介されています。そして唐や宋の時代に至るまで、中国の首都は北緯34度26分を中心として、その南北に10分少々誤差で収まるように「地中」を意識したかのごとく、その緯度の範囲内で首都の場所は移動を繰り返しました。例えば洛陽は、「東都賦」によれば「即土之中」に位置するからこそ、前十四世紀、殷の盤庚や前十一世紀に周の成王が、そこに都を置いたとしています。

しかしながら、陽城の場所が特定された背景は全くわかっていません。そもそも「影の長さが1尺5寸になる所」という基準で





岩上神社の神籬岩

考えるならば、その緯度にある線上のどこでも良い、ということになってしまうのです。しかも陽城周辺には何ら目印となるような地点があるわけでもなく、単に古代中国において山岳信仰が盛んであった地域の山麓に位置します。その信仰の山は嵩山と呼ばれ、殷の時代では既に山上に祭祀場が設けられ、王朝の為の儀式が執り行われていました。後世においては王都の山として揺るぎない定評を博し、周代に至っては神の昇降する場所として民から篤く尊崇されたのです。そして陽城が「地中」と呼ばれ、世界の中心は天の中心とも考えられたことから、近隣の嵩山は天帝の下りの「降神」の場所として崇拜されるようになったようです。それ故、陽城と嵩山とは深い繋がりによって結ばれ、「後漢書」や「東観記」の記述からも、嵩山と陽城が「地中」であるという観念が、後漢代までも続いていたことがわかります。

ではなぜ、広大な中国大陸の中で、特異な地勢もなく、単に山麓に囲まれる陽城の場所が地中として選ばれたのでしょうか。大胆な発想にはなりますが、「地中」が位置する北緯34度26分は淡路島の神籬岩とちょうど並ぶことから、淡路島の中心と「地中」が何らかの理由で結び付いていると考えてみました。中国大

陸にて陽城が「地中」であると特定された根拠とは、神籬岩と同じ34度26分の線上に、その場所を探し求めた結果ではないでしょうか。縄文時代前期、日本列島に渡来した古代の民が、列島の中心となる場所を淡路島の神籬岩と定め、そこを基点として阿久遺跡の場所を特定したように、その神籬岩を基点として、アジア大陸の「地中」を同じ緯度上に見出した古代人が存在したという考察は、自然の地勢と太陽を大切にしていた古代の民であっただけに、検討に値します。

ひとつ注意しなければならないことは、ここでは古代史における日本の歴史的優位性など全く視野に入っていないということです。あくまで淡路島の神籬岩は、古代の知者らが世界を見渡しながら旅をした結果として見出した地球上の一つの指標であり、それがアジア大陸の東の端、日本列島に見い出されただけのことです。無論、その指標を見出したのは、まぎれもなく大陸からの渡来者であり、世界は様々な絆で繋がっていました。古代日本のストーンサークルと中国の「地中」が、神籬岩を介して接点を持っていたかもしれないという不思議な縁に、大きなロマンを感じずにはいられません。

東北地方に出現したストーンサークル

淡路島の神籬岩が重要な指標として認知されていたと仮定することにより、阿久遺跡の集落が造成された後、古代の人々が東北地方北部、十和田湖周辺で、次の拠点となる場所として選んだ理由も見えてきます。昨今のDNA研究結果が示唆するように、日本人の祖先は元来、台湾から琉球諸島に渡り、沖縄周辺に居住したと想定

されます。そしていつしか四季に恵まれた淡路島が列島の中心的な存在として認知され、そこには指標となる神籬岩の存在がありました。また、夏至の太陽が昇る方向には阿久遺跡のストーンサークルと集落が造成され、アジア大陸においても、いつしか「地中」と呼ばれる天文所が、神籬岩と連携する指標として定められました。

その後、琉球地域に相対する日本列島の北部においても集落を形成することが望まれ、神籬岩の北側に選別された地域が、東北地方北部の十和田湖周辺です。琉球にある沖縄島の最南端、今日の平和の塔が建造されている喜屋武岬から淡路島の神籬岩を通過する一直線を引くと、北方に向かう線は青森県八戸市の北部の太平洋岸沿いにあたります。その線が海岸線と交差する地点から十和田湖方面に真西に向かった場所に、縄文時代後期の太師森遺跡が造営されているのです。十和田湖の豊かな水源の存在を見出すことで、列島北部の拠点を容易に確定することができたのです。こうして古代の民は、同一の線上や、緯度にある土地を選別しながら、ストーンサークルの地を選別した可能性がありそうです。それ程、太陽に通じる天文学と地球上の緯度、地勢は、重要であったのです。

縄文時代後期には太師森遺跡を始めとして、十和田湖周辺に複数のストーンサークルが造られました。その立地条件を決める手掛かりは2通りあったようです。まず、日本列島北方の拠点の中心として位置づけられた十和田湖の周辺にあることが不可欠でした。あくまで豊かな水源の存在が、集落を形成する条件だったのです。次に、その

十和田湖に向けて海岸から川沿いに上流までの上っていくことができる地点であることが重要視されたようです。こうして小牧野遺跡は青森湾に注ぐ荒川沿いに、大湯環状列石と伊勢堂岱遺跡は日本海に注ぐ米代川沿いに、湯舟環状列石は三陸南部に注ぐ北上側沿いに造られたのです。無論、太師森遺跡も例にもれず、浅瀬石川沿いに造られています。十和田湖は見事な水源を提供しただけでなく、近隣の海岸周辺は漁獲の宝庫でもあることから、これら古代の集落は栄えたに違いありません。こうして古代の日本列島には、淡路島を基点として、その中心そばには諏訪盆地の阿久遺跡が、南方には琉球界隈の集落が、そして列島の北部、十和田湖周辺にも多くの集落が形成され、その他、列島各地にストーンサークルが造成された時代があったことを知ることができます。

アジア大陸から日本列島へ旅する航海術

遠い昔の古代社会において、大陸経由の民が日本列島に渡来して淡路島に指標を見出し、それを機に、集落や重要拠点が見出された可能性についてこれまで言及してきました。その背景には、世界的な視野で地勢を見渡すことができる航海術を持つ民が存在していたという前提が不可欠です。一見、不可能と思える高度な航海技術であっても、日本で阿久遺跡が造られた縄文時代前期にあたる前三十世紀頃、地中海周辺ではエジプトが初期王朝時代を迎え、それから200年もたためうちに古王国時代が始まり、ピラミッドの建造が始まったことを振り返れば、多くの可能性を秘めた時代であったことに気がつきま

す。そして前二十六世紀頃にはギザの三大ピラミッドが建造され、エジプト文化の優れた土木技術を世界に知らしめることになりました。今日でもピラミッドの背景は多くの謎に包まれたままですが、確かなことは、当時の天文学や土木技術に代表される古代文明は極めて高度な技術を保持していたことからしても、古代の文化レベルは想像を絶する程高いものであったということです。その後、西アジアにおいてはメソポタミア文化が発展し、シュメール文化を中心とする極めて高い天文学の技術と航海術を持つ民族が一世代を風靡していたことが知られています。

アジアを中心とする古代文明においては、遠い昔から航海術を駆使して海原を渡る民族が存在していました。そして全世界をくまなく行き来する過程において、アジア大陸の東の端にある日本列島が見出され、その中心にある淡路島を指標としたのではないのでしょうか。淡路島の直下には列島を分断する程の潜在的な亀裂を持つ大きな断層が走っているだけに、古代の知者は、そこが地勢的に列島の大きな分岐点であることをいち早く悟ったのかもしれない。そして何よりも大切なことに、巨大な立石の雄姿がそこにはあり、岩を大切にしていた古代人だからこそ、その場所を一大指標とすることにためらいはなかったでしょう。そして中国大陸の中心となるべく「地中」をも同緯度に定めたのです。神籬岩と「地中」が並ぶ34度26分の緯度こそ、古代文明の優れた英知を証しているといえます。(文・中島尚彦)

連載中の歴史コラムは随時更新して
<http://www.history.jp.com/>
に掲載しています。是非ご覧下さい。

活躍できるステージがあります

サウンドハウスは楽器・音響業界のネット通販で全国トップ、ひとり一人のお客様にとって最高の存在でありたい

「すべてはお客様の笑顔のために」

※米国 Music Trade 誌 2012年8月号より

<サウンドハウスでは、こんな業務を行なっています>

- 自社製品の開発企画、デザイン
- 国内外取引先への商品発注
- 電話やメールでの問い合わせ、注文への対応
- ショールームでの接客
- 自社WEBサイトの制作、管理
- 販売管理システムの構築、管理

国内最大規模の
楽器・音響機器販売会社



株式会社

サウンドハウス

<ロジハウスでは、こんな業務を行なっています>

- 最新の物流システムを駆使した商品のピッキング、梱包、出荷
- より快適で効率的な物流システムへの改善、提案
- スタッフの労務管理
- フォークリフトを使用した商品の搬送
- 税関に赴いての通関業務

サウンドハウスグループの
中核である物流を担う



株式会社

ロジハウス

正社員・パート募集中

社 月給19万円～ 時給1000円～

充実の福利厚生

- 社保完備、年2回賞与(パート含む)
- 車通勤可
- 海外研修
- 天然温泉無料優待
- 独身・家族用マンション、家族用戸建あり etc...

お問合せ (担当:採用係)

0476-89-1777
job@soundhouse.co.jp

最新の採用情報はWEBサイトでご確認下さい >>> <http://guide.soundhouse.co.jp/kaisya/saiyou.asp>

応募はWEBサイトから、もしくは希望業務内容を記載の上、履歴書・職務経歴書を直接郵送してください 〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3 (野毛平工業団地内)



成田フルメNAVI

第89回

本格水炊き鍋とJAZZを楽しめる良店
隠れ家居酒屋 だん

鍋を囲んで家族や友人と語り合う時間が愛おしい季節。今回は、本格的な水炊き鍋を提供する店として評判の成田駅前「だん」を訪れてみた。古民家を思わせるウッディな内装の店内にはJAZZが流れ、落ち着いたアットホームな雰囲気でお印象。メニューは鹿児島産の知覧鶏を軸に、焼き物や鍋、おつまみも豊富にラインナップされている。今回は水炊き

鍋をオーダー。鶏ガラを6時間以上煮込んだというスープに、野菜、つみれなどがたっぷり入り、別皿に盛られた知覧鶏は、しゃぶしゃぶ風に少しだけ火を通して食べるのが流儀とのこと。まずはスープをじっくりと味わう。深みがありながらもくどさがなく、さっぱりとした素晴らしい味わい。知覧鶏は、評判通り野趣溢れるダイナミックな味で、生でも食べられるような新鮮さ。まるで貝のような豪快でしっかりとした歯ごたえは、現代人が普段なかなか味わうことのできない、鶏本来の味に気付かされる、この店ならではの体験と言えそう。個室や宴会用のテーブルもあり、仲間内でゆっくり楽しめるお勧めの良店だ。

隠れ家居酒屋 だん
千葉県成田市花崎町814-32
☎0476-23-2016
[17:00~01:00 不定休]
※ラストオーダー24:00

総合評価★★★★☆



カリフォルニアのおいしい水 アクアヴィル

AQUAVILLE

PURIFIED DRINKING WATER

500ml×24本

478円

全国どこでも送料 420円
※一部地域、離島は除く

お手頃な価格でお届けします。
【携帯でのご注文はこちら】
フィットネスハウス
☎0476-89-3111



中古スチールデスク

大特価 1,000円



※直接引き取りに
来られる方のみ



何にでも使えて便利 パレット

無料で
お返しします!



数に限りが
ありますので
お早めに!

野手平工業団地・清和工場近く
(株)サウンドハウス内
TEL:0476-89-2227
千葉県成田市新泉14-3(平日 9:00~19:00・土曜 12:00~17:00)

北欧デンマーク製
skovby
Excellent Dining Rooms

伸長式ダイニングテーブル入荷!

家族の団らんやホームパーティ...シーンに合わせて伸縮自在! 数量限定大特価

一緒にダイニングチェアもオススメ!



最大 306cm まで伸長!

最大 356cm まで伸長!

最大 179cm まで伸長!

円形からおにぎり型へ伸長!

展示品特価
SM52B ¥128,000

在庫限りの処分特価
SM50MB/ALBA444 ¥39,800

展示品特価
SM65W/L0461 ¥39,800

skovby 全商品 送料無料

Skovby(スコビー)は、デンマークで創業 80 年の歴史を持つ北欧家具の老舗メーカー。厳選された木材だけを使用し、熟練した職人技によって生み出される製品は、世界中で高い評価を受けています。

SM23E ¥149,800

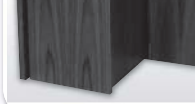
- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです



最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです



最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

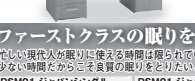
- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです



最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

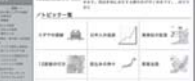
- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです



最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです



最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです



最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129,800

- 色: ウォルナット
- 幅: 40/109/179cm
- 奥行: 80cm 高さ: 73cm
- 重量: 60kg
- 2~6 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 179cm まで伸長!

SM23E ¥149,800

- 色: オーク
- 幅: 150/202/254/306cm
- 奥行: 90cm 高さ: 73cm
- 重量: 75kg
- 天然木化粧板
- 4~12 人掛け
- ※チェアは別売りです

最大 306cm まで伸長!

SM101N ¥129